

Ⅲ-7

いしいがい どうぐ 石以外の道具はあったのだろうか？

岩宿遺跡では、石器と焼けた石、小さな炭の破片が発見されただけでした。その他の多くの日本の遺跡でも、やはり岩宿遺跡と同じく石器や石、炭の小片が発見されるだけなのです。しかし、岩宿（旧石器）時代の人々は、石器だけを使って生活していたのでしょうか。例えば石器に木の柄がつけられていたこと、衣服やイエの屋根材として毛皮が使われていたこと、またそれらを結ぶために木や草の繊維が使われていたことなどが考えられます。植物質のもの以外では、動物を狩りして得られた骨や角も、道具としてさかんに使われていたことでしょう。当時の人々は、それらの加工についてくわしい知識をもっていたと考えられています。



● 細石刃の槍の復原

鹿の角で作られた槍先に、小さな石器を組み合わせて作った細石器の槍は、石、角、木などを組み合わせて作られていることがわかる。岩宿（旧石器）時代の道具の中には、そうした組み合わせの道具がたくさんあったことだろう。



● 鹿角で作った針



● 角を削る

シカの角は、いろいろな道具を作る材料として使われていたと考えられている。それを加工するには、水につけて行くと軟らかくなって作りやすいことがわかっている。



● 彫器

シカの角を削るのには、頁岩などのこわれにくい石を材料として、へりを割って刃付けをした彫器を使った。